

第六十一回青少年読書感想文全国コンクール

鳥取県審査 優秀賞 および 鳥取県町村会長賞

「わたしとおかあさん」

岩美南小学校 一年 K・Y

「しっぽっぱ」なんだろう。「ほ」が二かいあるぞ。ひょうしのえのおかあさんとこどものおしりにはえたしっぽが、ながくなっていつてしまうたのしいおはなしなのかなあ。わたしにしっぽがはえたらどうなるかなあとわくわくしたし、しっぽがはえたらたいへんなのかなあとおもったよ。

ゆいちゃんってわたしとおなじなまえだな。おかあさんは、おかしやさんだからたいへんそうだな。はじめてよんだときおもったよ。

でも、なんかいもほんをよむと、ゆいちゃんのきもちがよくわかってきたよ。

ゆいちゃんは、おかあさんからおてつだいをたのまれたり、ゆびのあとをつけないでといわれたりして、いやそうなかおをしていたよね。おかあさんがすればいいのに。わたしだけにさせないでっておもったんだよね。わたしも、おかあさんにおてつだいをたのまれて、めんどうだなあとおもったことがあるよ。それに、わたしには、むずかしいおてつだいなのに、

「まえにやったからできるでしょう。」

といわれることがあって、おかあさんいじわるだなとおもったことがあるよ。だから、ゆいちゃんのおかあさんは、きつねにたべられちゃったのかなと、わたしもしんぱいになったよ。

でも、そのしんぱいはきえちゃった。ゆいちゃんとおかあさんが、おふろにはいつておはなしをすることができたからだよ。きつねっておもっていてごめんねのなみただよね。

わたしのおかあさんは、いそがしいと、ちょっとまってといってやってくれないことがあるよ。わたしも、おかあさんによばれても、えをかくのにむちゆうになっているときは、ちょっとまってといってしまふことがあるよ。わたしも、おふろにはいつて、おかあさんにごめんなさいのきもちをつたえたいな。おかあさんともつとはなしをしたいな。